

東京都農林総合研究センター 研究発表会の開催！

東京都農林総合研究センターは、新品種の育成や病虫害の総合的防除、食の安全・安心を確保するための技術開発、地域資源を利用した食品開発など、生産者や都民の暮らしに役立つ試験研究に取り組んでいます。

このたび、実施した試験研究、調査等の成果について、発表会を開催いたします。

農林業関係者の皆様はもとより、東京の農林業に関心のある都民の皆様のご来場をお待ちしております。

日 時 平成23年3月4日（金）10時～16時

開催場所 （公財）東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター講堂
立川市富士見町3-8-1（地図参照）

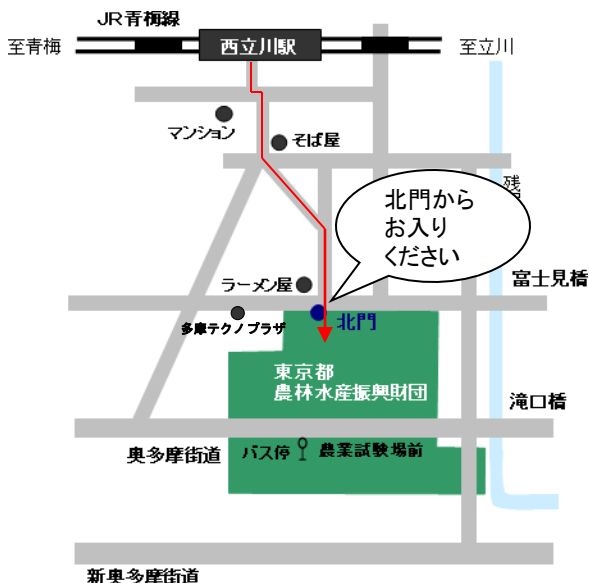
入場無料（事前申し込み不要）

○ **特別講演**（14：00～15：00）板木技術士事務所 所長 板木 利隆 氏
『野菜づくりの昔と今』 ～野菜たちと向き合った60年に想う～

○ **主な発表課題**

- ・ **ポインセチアでより美しい装飾を** ～東京から生まれた新しい切り花～
「市場価値の高い新たな切り花を提案します。」
- ・ **立体的に街を彩る「花マット」** ～「花マット」の開発と新たな展開～
「イベント会場から家庭までを花で彩る花マットを紹介します。」
- ・ **近紫外線除去フィルムが農薬の残留に及ぼす影響** ～食の安全確保に貢献します～
「病虫害の物理的防除資材利用栽培における農薬残留特性の解明を進めています。」
- ・ **アシタバペーストの開発** ～色が良く滑らかなペーストができました～
「アシタバの特徴ある風味や色調をより活かした加工ができます。」

◎このほかに8課題の発表があります。



鉢花よりもコンパクト
安価で、切花よりも観
賞期間が長い

廃棄制服素材の利活用

お皿に水をはるだけの省管理

焼却可能な培地を使用

「花マット」の活用方も紹介します

<問い合わせ先>

（公財）東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター
研究企画室（河野（カワノ）・小嶋）
電話 042-528-5216（直通）

東京都産業労働局農林水産部
調整課（朝長（トモナガ）・会田）
電話 03-5320-4809（直通）都庁内線 37-140

立体装飾も可能



東京都農林総合研究センター研究発表会

日時 平成 23 年 3 月 4 日 (金) 10:00 ~ 16:00

場所 (公財) 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター 講堂

特別講演 14:00 ~ 15:00

『野菜づくりの昔と今

～野菜たちと向き合った60年に想う～』

板木技術士事務所 所長 板木 利隆 氏

<板木 利隆(いたぎ としたか)プロフィール>

1950 年千葉農業専門学校(現千葉大園芸学部)卒業。千葉大学助手、神奈川県園芸試験場技師、技術研究部長、場長、神奈川県農業総合研究所所長、全農農業技術センター技術主管を歴任。農学博士。

現在は、板木技術士事務所所長の他、全農営農技術センター受託調査員(養液栽培、育種、省エネ)、茨城県農業大学校非常勤講師、日本施設園芸協会委員(施設園芸技術者研修・資格認定、先進的加温システム)、日本園芸生産研究所理事、日本野菜育苗協会顧問、日本生物環境工学会評議員を務める。「施設園芸・装置と栽培技術」、「校庭の作物」、「養液栽培の実用技術」、「野菜の育苗と栽培」、「昔の野菜と今の野菜」、「家庭菜園大百科」、「はじめての野菜づくり 12 ヶ月」、「からだにいい野菜の便利帳」ほか著書多数。月刊誌「JA 広報通信」、「JA 包装園芸資材」、「家の光」などに連載中。

10:05 ~ 10:20

ブルーベリーの品種改良～夏に強く高品質な東京オリジナル品種を作っています～

近年人気の高い果樹であるブルーベリーは、東京の夏の気候は苦手です。高温や乾燥に強い品種と、良食味など高品質な品種を交配し、東京オリジナル品種の作出を試みました。耐乾性があり、生食用や観賞用などとして有望な品種候補が選抜されました。

10:20 ~ 10:35

スギ・ヒノキ人工林伐採跡地の広葉樹化技術開発～広葉樹林化のためのポイント～

多面的機能の観点から、広葉樹導入への関心は高まっていますが、未だ広葉樹の導入手法が確立されていません。そこで、スギ・ヒノキ人工林を伐採した跡地において、広葉樹がどのように生育していくかを調べ、伐採跡地における広葉樹林化のポイントをまとめました。

10:35 ~ 10:50

アシタバによる「東京うこっけい」の品質向上試験～アシタバポリフェノールの可能性～

長期間の産卵により産卵率が低下した「東京うこっけい」に乾燥アシタバを添加した飼料を給与したところ、産卵期間の延長効果が見られました。また、高濃度のアシタバを飼料に添加して給与したところ、生産された卵の卵黄にアシタバと同じ抗菌性があることがわかりました。

10:50 ~ 11:05

分子診断技術による病害虫の解明～アシタバ疫病の新病原～

伊豆諸島のアシタバに疫病が発生しました。本病には2種類の病原菌の関与が知られていますが、分子診断技術を用いて病原菌を調査したところ、これまでとは違う菌が原因であることが迅速に診断できました。今後、それぞれの病原菌の生態を解明し、防除対策を構築します。

11 : 05 ~ 11 : 20

ポインセチアでより美しい装飾を ~ 東京から生まれた新しい切り花 ~

遺伝資源植物として収集・評価・保存しているポインセチア 80 品種の切り花としての栽培特性や市場評価を調査したところ、多くの品種で市場性ある切り花生産が可能でした。{ 東京から生まれた新しい切り花 } の利用で、より美しい年末の装飾ができるようになります。

11 : 20 ~ 11 : 35

立体的に街を彩る「花マット」 ~ 「花マット」の開発と新たな展開 ~

「花マット」の屋上緑化利用における適正な灌水方法や用土の軽量化技術を開発しました。また、「薄い、軽い」という特性を活かした屋上緑化以外の立体的利用と、新たな展開として考案した一般向け商品「テーブル花マット」をご紹介します。

13 : 00 ~ 13 : 15

東京の農地集落における農業に有用な指標生物の候補の選抜

~ 環境保全型農業と生物多様性について ~

昨年度の調査から、農業に有用な指標生物として候補に挙げた種について再検討を行い、またその結果、年次による捕獲数の変動が大きいことを明らかにしました。

13 : 15 ~ 13 : 30

近紫外線除去フィルムが農薬の残留に及ぼす影響 ~ 食の安全確保に貢献します ~

コマツナに登録がある農薬の場合、植物が関与しない条件で近紫外線を除去すると分解遅延が起きる薬剤でも、作物に散布すると遅延は認められません。使用基準に沿って管理すると食の安全は確保できます。

13 : 30 ~ 13 : 45

コマツナの周年施設栽培における土壌物理性の現状 ~ 団粒の程度と粉状化 ~

団粒構造が破壊されパウダー状になる「粉状化現象」がみられる江東地域のコマツナ周年施設の土壌物理性を調査し、粉状化の程度を団粒の状態などから暫定的に 3 つに区分しました。

15 : 00 ~ 15 : 15

野菜の有望品種紹介 ~ おすすめ品種を紹介します ~

栽培時期、作りやすさ、販売形態、食味などを踏まえて、冬・春まきハウレンソウ、春まきダイコン、初夏どりキャベツ、3 ~ 4 月まきスイートコーンの都内向け有望品種を選定しました。

15 : 15 ~ 15 : 30

アシタバペーストの開発 ~ 色が良く滑らかなペーストができました ~

伊豆諸島の特産品であるアシタバの特徴を活かし、菓子や麺類等の加工食品への利用に適したアシタバペーストを開発しました。ペースト化には、ペクチン分解酵素処理技術および炭酸水素ナトリウム溶液によるブランチングを応用しました。

15 : 30 ~ 15 : 45

丸くて多収、肉質しっかりのサトイモ新系統「東京土垂 1 号」 ~ 有望系統の選抜と普及に向けて ~

「土垂」の特徴であるぬめりを損なわず、煮崩れしにくく、食味が良い点を保ち、かつ多収で 1 株の中に商品性の高い丸や俵形の芋が 5 割以上着く特徴を持つ新系統を選抜しました。今年度、「東京土垂 1 号」の愛称を付けて、試作用の種イモを生産者に配布しました。